

— 沿岸域の海況情報とその活用法 —

主催：一般社団法人水産海洋学会

後援：福井県立大学海洋生物資源学部

日時：2016年11月9日（水）13：00～17：00

場所：福井県立大学小浜キャンパス（小浜市学園町1-1）

コンピーナー：兼田淳史（福井県大海洋生資），渡邊達郎（水産研究・教育機構日水研），
広瀬直毅（九大応力研），鮎川航太（福井水試）

挨拶：和田時夫（一般社団法人水産海洋学会） 13：00～13：05

趣旨説明：兼田淳史（福井県大海洋生資） 13：05～13：10

話題

座長 兼田淳史（福井県大海洋生資）

1. 沿岸海洋モデルを利用した急潮予測 13：10～13：30

広瀬直毅（九大応力研）

2. 京都府の事例 —海況情報および急潮対策等— 13：30～13：50

船越裕紀（京都海セ）

3. 福井県の事例 —海況情報および急潮対策等— 13：50～14：10

鮎川航太（福井水試）

4. 石川県の事例 —海況情報および急潮対策等— 14：10～14：30

辻 俊宏（石川水総セ）

—休憩—

14：30～14：45

座長 広瀬直毅（九大応力研）

5. 宮崎県の事例 —日向灘の海況情報とその活用法— 14：45～15：05

渡慶次 力（宮崎水試）

6. 観測ブイが搭載する ADCP の有効利用の検討 15：05～15：25

兼田淳史（福井県大海洋生資）

7. 定置網を利用した海洋データの収集と解析 15：25～15：45

千手智晴（九大応力研）

8. 水中グライダーを用いた佐渡北西海域のモニタリング 15：45～16：05

渡邊達郎（水産研究・教育機構日水研）

—休憩—

16：05～16：20

総合討論

座長：兼田淳史（福井県大海洋生資），渡邊達郎（水産研究・教育機構日水研），

広瀬直毅（九大応力研）

16：20～17：00

開催趣旨：沿岸域の観測技術や海の予報技術の発展は、新しい「海の情報」を生み出している。その「海の情報」は、スマートフォンや携帯電話などで閲覧可能なことから、港や漁場など多様な場所で利用されている。たとえば、日本海沿岸では急潮による漁業被害の防止・低減を目的とした観測体制が構築されるとともに、「急潮予測システム」（1週間先までの急潮発生を予測）の運用がすでに始まっている。また、日本海以外でも地域の問題解決を目的とした「海の情報」の新規開発・提供が推進されつつある。本集会では、それぞれの地域における新技術の適用事例や見えてきた課題、新たに挑戦している観測やモデル開発等について情報交換を行うとともに、これからの海況および海洋環境の情報提供とその有効利用について考える。